

平成 30 年 5 月 30 日現在

機関番号：17401

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2017

課題番号：26780465

研究課題名(和文) 公教育の構想指針原理に基づく実践理論体系化に関する研究

研究課題名(英文) Study of Systematization of Practical Theories based on the Principle of Public Education

研究代表者

苫野 一徳 (Tomano, Ittoku)

熊本大学・教育学部・准教授

研究者番号：70507962

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：公教育の構想に際しての、共通理解可能な原理的「指針」を持たないために混迷を続けてきた近年の教育改革・構想に対して、これまで申請者は、その指針原理を解明する研究を行ってきた。本研究では、この公教育の構想指針原理に則って、教室レベルから行政レベルに至るまでのさまざまな教育実践理論を、「教育学のメタ理論体系」として、相補的・協同的・整合的に体系化するための理路(理論)を構築した。

研究成果の概要(英文)：I had elucidated the principle of public education in order to resolve various kinds of problems in the field of education due to the absence of this fundamental principle. In this study, I systematized 'the system of meta-theories of pedagogy' based on this principle.

研究分野：教育哲学

キーワード：公教育の構想指針原理 自由の相互承認 教育学のメタ理論体系

## 1. 研究開始当初の背景

公教育とは何か、そしてそれは、どうあれば「正当」といえるのか。これは教育学の学問的アイデンティティにかかわる問題であるが、近年教育学は、この問いに明確な指針を打ち出せず、「規範欠如」の問題に行き当たっていると指摘されている(広田 2009)。その一方で、わが国をはじめとりわけ先進諸国では、これまで、その正当性を巡る議論が十分尽されることなく、教育改革が矢継ぎ早に進められてきた。何をもちて教育の現状を「問題」とし、どのような改革であれば「正当」といえるのか。この指針なき改革は、これまで、教室レベルから行政・制度レベルに至るまで、さまざまな教育現場の混乱を引き起こしてきた。

この「構想指針原理」欠如の問題は、教育学諸領域のいわゆる「細分化」の問題を深刻化させる問題をも生じさせている。今日教育学は、そもそもどのような教育を構想すれば「よい」といえるかというまさに「構想指針原理」を欠いてしまっているがゆえに、膨大かつ多様な諸研究蓄積を、いかに相補的・協同的、そして整合的に活かし合うことができるか、また活かし合っていけば「よい」のか、その共有可能な指針・理路を見失ってしまっているのである。

こうした現状を受けて、申請者はこれまで、まず公教育の構想指針原理の解明を行い(2010~12年度科学研究費若手研究(B))、続いて、その構想指針原理に基づく実践理論体系化のためのメタ方法論(教育学のメタ理論体系)研究を行ってきた(2014~17年度科学研究費若手研究(B))。その結果、公教育の「本質」は、「各人の自由および社会における自由の相互承認の教養=力能を通じた実質化」、そしてその「正当性」原理は、一般福祉の原理と定式化されることを明らかにした。この「原理」は、近年地方教育行政等における指針原理としても取

り入れられており、その過程において、その実践的有効性の検証研究もなされている(山口 2011)。続く「教育学のメタ理論体系」研究においては、教育学の3部門、すなわち「目的・規範部門」「実証部門」「実践部門」の3部門を整合的に関連づけるメタ理論体系を明らかにしたが、これによって、上記「構想指針原理」を実質化するための実践理論群を導出するメタ方法論が明らかになった。

## 2. 研究の目的

以上から、本研究の目的を次の新たな課題に焦点化した。

- (1) 報告者がこれまでに解明してきた公教育の構想指針原理の、理論的(哲学的)検証。
- (2) 構想指針原理を達成するための、個別具体的な実践理論の相補的・協同的・整合的な体系化のための理路(メタ理論)解明。
- (3) メタ理論の意義および射程を明らかにするための、教育学諸理論の体系化の例示。

## 3. 研究の方法

研究目的(1)について、公教育の構想指針原理研究およびこれが依拠する現代政治哲学の諸理論を収集し、それら諸理論を導出した「方法論」を抽出・類型化、その対立構造や問題点を明らかにした上で、申請者がこれまでの研究において提示した「教育構想のためのメタ方法論」および「構想指針原理」が、これらに対して原理的に優位であるかどうか検証した。

研究目的(2)について、教育学を「目的・規範」部門と「実践」部門に区別し、両者の関係性および「実践理論」の相補的体系化の理路を明らかにした。

研究目的(3)について、研究協力者の、東京都杉並区教育委員会・済美教育センター調査研究室長山口裕也氏との共同研究を行った。

#### 4. 研究成果

とりわけ論文「教育学のメタ理論体系」において、本研究の目的を達成した。概要は以下の通りである。

教育の本質および「正当性」の原理の長年にわたる欠如、そしてまた、教育学諸領域の細分化の問題のために、今日教育学は、「研究指針の欠如」と「諸領域間の協働の困難」の問題に突き当たっている。この問題は、端的には教育学3部門の次の問題を根源とする。すなわち、1.「目的・規範部門」(教育哲学)における「教育の構想・指針原理」の欠如の問題、2.「実証部門」における「科学性担保の理路」の欠如の問題、3.「実践部門」における1、2の欠如に起因する諸実践理論の対立・齟齬の問題。

本論文では、これらの問題を解消するため、上述の3部門それぞれのメタ理論を解明・体系化し、教育学諸領域の知見を相補的・整合的・協働的に体系化・活用するための理路を明らかにした。結論は以下の通りである。

1.「目的・規範部門」において、これを導出するためのメタ方法論は「現象学＝欲望論的アプローチ」となり、これを定式化すると次のようになる。すなわち、「われわれが教育の「目的」や「正当性」に対して抱く「確信」「信憑」が「欲望・関心相関的」であるのだとするならば、この「欲望・関心」について、普遍的に了解されうるような「欲望・関心」はありうるか。もしあったとするならば、そのような「欲望・関心」を十全に達成しうる、社会や教育の根本条件(目的・正当性・構想指針の原理)は何か。」

このメタ方法論から導出される公教育の本質(メタ理論)は、「各人の自由および社会における自由の相互承認の教養＝力能を通じた実質化」であり、その正当性の原理は一般福祉となる。

2.「実証部門」における「科学性担保の理路」(メタ理論)は次のように定式化さ

れる。すなわち、「教育学「実証部門」の「科学性」は、「関心相関的に立ち現れた教育現象を、共通了解可能な仕方(予測・制御)できるよう(質的研究の際には特に)

構造化に至る諸条件の開示の方法を自覚的に取りつつ構造化する」ことによって担保される。」

3.「実践部門」のメタ理論(メタ理論)は次のように定式化される。すなわち、「教育学「実践部門」は、「各人の自由および社会における自由の相互承認、また一般福祉」というメタ目的を達成するために、実証部門の諸成果と相互作用しつつ、それぞれの状況に応じた一理論として構築・体系化される。」

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計2件)

菅野一徳「教育学のメタ理論体系」『本質学研究』第5号、査読有、2017、1-17。

菅野一徳「『自由の相互承認』のための学校・地域コミュニティづくり - 教育心理学と教育哲学の協働のために - 」『教育心理学年報』第56号、査読有、2017、216-224。

[学会発表](計2件)

菅野一徳「公教育の本質原理に基づく未来の学校づくり」九州教育学会、2017年11月25日、鹿児島大学。

菅野一徳「現代に生きるトルストイの教育思想」日本トルストイ協会、2017年9月16日、昭和女子大学。

[図書](計5件)

菅野一徳『はじめての哲学的思考』筑摩書房、2017年、223。

多賀一郎・苜野一徳『問い続ける教師—  
教育の哲学×教師の哲学』学事出版、2017  
年、208。

苜野一徳・菊池省三『学校は、何をす  
るところか』中村堂、2018年、160。

加賀裕郎,高頭直樹,新茂之編『プラグマテ  
ィズムを学ぶ人のために』世界思想社、  
2017年、280。

伊藤良高, 富江英俊編『教育の理念と思想  
のフロンティア』晃洋書房、2017年、109。

〔産業財産権〕

出願状況（計0件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

## 6．研究組織

### (1)研究代表者

苜野一徳 (TOMANO, Ittoku)

熊本大学教育学部・准教授

研究者番号：70507962

### (2)研究分担者

( )

研究者番号：

### (3)連携研究者

( )

研究者番号：

### (4)研究協力者

( )